

「山北町の人口減少対策について」の一般質問をします。

山北町議会総務環境常任委員会は、この4年間、人口減少に歯どめをかける取り組みを中心に調査研究を重ねてきた。それは、平成26年に日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した、県内の9市町村の中でも、消滅の可能性が高いと言わざるを得ないと指摘された松田、山北、箱根、真鶴、清川では、当然、危機意識を抱かざるを得なかったからである。

このような状況を踏まえ、後半2年間、さらに総務環境常任委員会では、人口減少につながる課題を抽出した結果、御殿場線ICカードの問題、働き場所の問題、子育て環境の問題、秦野峠林道、道志村トンネルの問題、つぶらの公園整備の問題、玄倉公共施設の問題、丹沢荘の活用、三保ダム広場の活用、町内交通の再構築、買い物弱者、土地利用、山砂利跡地利用、山北スマートIC、それから、鳥獣被害対策、林業を生かしたまちづくり、防災減災等の取り組みの重要性を各委員から報告された。

議会報告会等で町民の皆様の声を聞き、1、交通の便、2、働き場所、3、子育て、4、未婚晩婚、5、鳥獣被害の五つの目標に絞り込み、それと連動させるように県外視察を設定した。身延町の視察では、町内交通機関の総合的運用がなされ、町民の利便性を中心に考えられた運行が、かゆいところに手が届くようだった。早川町の視察では、やまなしジビエ認証第1号と早川町長の「鳥獣被害は公害だ、人任せにはしないで町が実施する」と述べられた力強さが印象に残った。また、土地利用の米倉山のメガソーラーシステムの視察は、未来のまちづくりを想像させるものだった。そして、本年2月の、御殿場アウトレットと小山町内陸フロンティア視察では、「働き手がいなし」との情報を得たことであった。

第5次総合計画の後期基本計画で、町の将来像をつくり上げているのは、承知していますが、御殿場アウトレットの情報では、100店舗の増設と宿泊施設で1,000人以上の働き手が必要で、現在、三島方面に向かっているが、慢性的な働き手不足である。小山町の内陸フロンティアが満杯になると2,300人の働き手が必要になるということである。このように、県は違うが、山北町の近隣の市町であり、距離的にも近いなど好条件がそろっている。そこで質問

をする。

御殿場市、小山町にある働き口についての考え方を問う。

1) 交通の便が悪い、近くに働き場所がないという理由で町外に流出してしまう若者をとどめるためにも、働き口を求める誘導策の考えは。

2) 山北町はこれまでの仕事先が東京方面だが、距離的にも時間的にも近い西方面へのシフトについての考え方は。

3) 小山町に出向職員を向ける考えは。

以上です。

議  
町

長 答弁願います。町長。

長 それでは、井上正文議員から、「山北町の人口減少対策について」の御質問をいただきました。

初めに、「御殿場市、小山町にある働き口についての考え方を問う」については、1番目の御質問の「交通の便が悪い、近くに働き場所がないという理由で町外に流出してしまう若者をとどめるためにも、働き口を求める誘導策の考えは」についてであります。山北町内に若者が住み続けるためには、住居地の周辺での働く場所の確保が一つの条件であると思います。このため、町では諸淵工業団地、平山工業団地、原耕地地区の食品会社・スーパーマーケット、丸山山頂の企業などを誘致し、町民の働く場所の確保に取り組んでまいりました。そして、現在、原耕地地区では、ドラックストアが開店の準備を進めるなど、継続的な企業誘致に努めております。

さらに現在、ふるさと寄附金の新たな体験型返礼品として、ガイドが同行するハイキング、キノコ類の植菌から収穫までの体験、森林の枝打ち・間伐・下草刈の体験、そばの種まき・収穫・そばづくり体験などを検討しており、これが実現すれば、ガイドや指導者などが必要となるため、新たな仕事の創出にもつながっていくものと考えております。

なお、近隣市町の働き場所など雇用に関する情報については、ハローワークなど関係機関と緊密に連携を図り、情報の収集や発信に努めております。

次に、2番目の御質問の「山北町はこれまでの仕事先が東京方面だが、距離的にも時間的にも近い西方面へのシフトについての考え方は」についてであります。平成27年に実施されました国勢調査では、山北町外に勤めてい

る町民は約3,000名で、そのほとんどが県内や東京方面となっております。これは首都圏に多くの働き口が集中していることや、最低賃金などが大きな要因であると思います。また、通勤の面でも首都圏へ向かう鉄道は、さまざまなルートや多くの本数があり、利便性が高いことも影響していると思われます。

職業の選択は、それぞれの個人に委ねられていますが、今後、御殿場市、小山町で多くの労働力が必要になってくるという情報も聞いておりますので、ハローワーク御殿場とも連携し、西方面の雇用情報を町民の方々に提供していくことも検討していきたいと考えております。

さらに、御殿場市、小山町と連携し、就職説明会を開催するなど、若者がずっと山北町に住み続けることができる環境を整えていきたいと考えております。

次に、3番目の御質問の「小山町に出向職員を向ける考えは」についてですが、本町では現在、神奈川県や小田原市消防などとの職員交流を実施しており、団体の相互理解、相互応援と協調関係などの面で効果があらわれてきていると認識しております。このため、この職員交流につきましては、引き続き、積極的に実施していきたいと考えております。

また、御質問の小山町への職員の出向ですが、本町から職員を出すだけの片側の出向については、現状の職員数等を考えると難しい状況ですが、職員を相互に派遣し合う職員交流制度を活用することは、お互いにメリットがある分野もあると思いますので、派遣する職員の業務など、今後、両町で協議、検討していければと考えております。

議 長 3番、井上正文議員。

3 番 井 上 回答は、町長の考え方として、基本的に小山・御殿場のほうに向いて、若者の働き口を求めていくという基本的な考え方はそれでいいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 はい。おっしゃるようにアウトレットにしても、また、ほかのところにしても、あれだけの事業をやっておりますので、それに対しての就職の働き口というのを、非常に、私も町長からも言われておりますし、非常に有効な方法ではないかというふうに考えております。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 3 番、井上です。

今、山北町が小山のまねをすとか、そういう問題で発言するのではあり  
ませんけども、この答えの中にもあるように、いろんな施策を打ちながら、  
人口減少対策を懸命に取り組んでいると。それは、第5次総合計画の中で、  
基本計画の一番上位の中でも検討されていると。

そういうことでありますけども、例えば、今の現状の中で、山北が人口の  
減少に、本当に歯どめをかけるような対策になっているのかどうかというこ  
とについて、平成35年に1万1,000人にしますよという人口フレームはあっ  
て。そのことをやったとしても、ずっと考えていたとしても、現状では、全  
然、もっと早いレベルで、人口がもう1万人を切ってしまうような状況にな  
ってしまっているというようなことを考えると、この小山・御殿場の情報は  
全部合わせると、3,000人を超えるような働き手をということになってくる  
ということですので、これは山北町にとっても第5次総合計画の見直  
しで、いずれにしても人口減少をどういうふうにとめていくんだというこ  
とは大きな課題でありますので、何としても、これは小山の、この情報は、山  
北にとっても本当にありがたい話なので、もうちょっと全体的に働き口の誘  
導策を含めて考えていくというふうなことが、私は必要ではないかと思っ  
ているんですが、町長、その辺はいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、これから完全に小山町さんのものが稼働し始めますと、  
本当にいろいろ雇用の問題というのは起きてきます。今、例えば三島のほう  
であるとか、秦野のほうというようなことで、小山町さんはやっております  
けども、当然、隣の山北・松田、そういったことも視野に入ってくるんだろ  
うというふうに思っておりますので、私はそういったことの情報ができるだ  
け、町民の皆さんにお知らせして、選択肢の一つとして、小山あたりに勤め  
ていただく、住むのは山北に住んでいただくのが一番いいのではないかと  
いうふうに思っております。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 井上です。

今、そういう回答をいただいて、そういうふうに向かっていくということは、山北町にとって、非常に有効であるので、ぜひそういう方向で向かっていただきたいんですが。ちょっと回答の中で、私もこの一般質問をするに当たって、いろいろな昔からの考え方だとか、いろんな調べ物をしていて、気がついたんですが、山北町が今までずっと歴史的に、仕事にいくと、就職を選んでいくということを考えたときは、私も何十年か前はずっと仕事に行っていたんですが、横浜・川崎・東京に仕事に行って、3時間もかけて、仕事に行っていたと。ほとんど大体、東京方面に向いていたんです、昔の人は。

それでも、向こうに仕事があつて、当時、小山の人も、御殿場の人も、結構、東京方面に向かつて仕事に行っていたんです。この町民の意識のいろいろな問題を5次総もこれで調べてみても、交通の便というのは、かなり多いんです。交通の便が悪いから山北には住みたくないという考え方の人、どうもこれでいうと5割いるような感じです。

そういうことを、どこから出てくるかということなんですが、これは、もう東京方面に目が向いていて、全て東京方面が就職先だというふうに考えているから、そういうふうに、当然、向きます。

そこを、このチャンスをもう一回とらえ返すと、東京方面に向いていた就職先も例えば小山・御殿場で3,000人以上の就職先があつて、若者の働き口として、有効であるということになった場合には、非常に、距離、時間から言ったら、全然近いわけですね。私は昔、東京とか横浜に仕事に行っていたときに、平塚あたりの人は近くていいなと思いました、かなり。

でも、小山・御殿場だと、平塚へ行くより全然距離も近いし、いいじゃないかと思うんです。時間的にも距離的にも近いので、例えば、そこに若者の働き口が、本当に適正な働き口があるかどうかという問題が、多分、一番問題ではないかと思うんですよね。私なんか、1回や2回の視察では、当然、わからないことがたくさんありますけども、いろんな説明を聞いた中では、例えば、私は山北の人の話の中では、西のほうへ行くと最低賃金が低いから行きたくないだよという意見を聞きました。そのことを含めて聞いたところ、例えばアウトレットのほうでは、最低賃金より高いですという答えなんかももらっているんです。

もう一つは、お客のレベルが高いというようなことも言われて、お客のレベルが高いということは、たしか東京方面から4割ぐらいのお客さんが来るらしいんです。地元が4割というようなことで、その人たちを、おもてなしをしていくということになると、例えば御殿場の言葉で、そういう言葉で使ってしまうと、お客さんには失礼になるというようなことで、研修なんかを積まないといけないというようなことも言われたんです。

ということで、働き口の問題で小山・御殿場が、非常にそういう若者の働き口にマッチしているというようなことになると、これは、もう何も遠くのほうへ横浜・川崎に行く必要性がないんです。もしそうであるならば、ちょっと山北の考え方、いろんな誘導策があるかと思いますが、そういう若者への昔からの東京方面オンリーの考え方、これをもうちょっと西に向けていくというふうに、何かの方法で考えられることは、多分、あると思うんです。

町長、その辺は今すぐに答えがあるかどうかは別にして、考え方はあると思うんですけども、いかがでしょうか。

議  
町

長 町長。

長 もう1年、2年ぐらい前から、そういうような、小山さんから将来的に雇用していくのを、ぜひ協力してほしいということで、5町にも投げかけられたことがございます。そのときの判断としては、就職口があるということは、非常にいいんですけども、先ほど言われた最低賃金とか、そういった問題があるから、基本的には神奈川県よりも上げてくれればいいんだと、簡単な話が。最低賃金も、あるいは正社員になる場合もです。

だから、まず正社員については、そんなに問題はないだろうというふうに思っておりますけど、臨時雇用あるいはアルバイトということになると、最低賃金の問題がかかってきますので、やはり、それについては本来の神奈川県並み以上にして、要するになるべく引っ張りたいわけですから、そういうことを考えれば、高目の設定をしていただければ、非常に我々も説得しやすいのではないかとというようなことでお答えしましたけども、それについては、各企業の考え方等もございますから、今現在は、それに対して、町がどうこうということは小山さんも考えておりませんが、これから、そういったよ

うな就職の説明会とか、そういった中で、そういった問題が出てきて、我々としては、その情報を皆さんに流しながら、ぜひ積極的に小山のほうにも勤めていきたいというふうに願っているところでございます。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 確認したいんですけど、我々が2月7日の日に総務環境常任委員会として、訪問して、行かせていただいたときの一こまなんですけど、どうも1時15分に、随分こだわっているんで、庁舎に1時15分までに来てくれと。行ったらびっくりして、町長以下副町長、職員がずらずらっと玄関に並んで出迎えてくれたんです。総務環境常任委員の人たち、みんなびっくりしちゃって。もちろん議員の人たちもみんな迎えてくれて、本当にあんなことをされたのは、初めてなのでびっくりしたんですが、多分、私は本気度が、小山が内陸フロンティアでやっていく本気度が、職員にも伝わり、それで、なおかつ、そういうお客様にも伝わるようなというようなことが本当に伝わってきたんです。

今、やっぱり、その中でも言われていましたけども、将来向こう、西側から来るほうが手詰まりな状態なので、ぜひ東側の山北・松田のほうから目を向けてみたいというふうにおっしゃっておられたので、町長が先ほどそういう関係で目を向けると言ってくれたことは、それに答えて、きちんとした格好で、町が目を向けていくというふうな考え方でよろしいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 その日は当然、私もその場に行っていましたけども、同じ日に。これから議員さんが来るということで、町長にもお会いしたときに言っていましたけども、うちと小山との関係は、非常に意思疎通も、あるいは隣同士ということもあるので、非常に仲よくやらせていただいておりますので、町の考え方はよくわかっておりますし、山北町も松田もそういった意味では、ぜひ、それに協力したいという方向性は全く一緒でございます。

おそらく、問題になるのは、やはり企業ですから、例えば三島から雇った人と、こちらから行った人が同じ条件でなければ、まずいと思いますので、そういったことを果たして町が指導できるのか、あるいは企業のほうに、そういったことを投げかけができるのか、そういったことを考えると、そうい

ったところが今、実務的には、なかなか企業の考え方ですから、ですから、その辺が若干あるのではないかなというふうに思っております。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 当然、企業ですから、企業の考え方はいろいろあるというのは、想定できますよね。今、山北町が考えたらいいなと思うのは、せっかく小山や御殿場のほうで、こちらのほうから就職先としてのエリアにしていきたいということで、もう議長なんかも、ぜひ今後、議員間交流も進めてほしいというようなことを熱望されていまして。

そうすると、もちろんそういう企業とかありますけども、町の姿勢として、やはり、いち早く小山のほうと連携を結ぶような考えがないと、なかなか、そのことが、ほかのほうの町が中心に仮になってしまうと、山北町が一步おくれるのではないかなというような気がしますので、いつの話でも何でもないですけど、その辺の町長の考え方をちょっと聞きたいんです。

議 長 町長。

町 長 小山の町長とは非常に懇意にしておりますので、ざっくばらんにそういったようなことは話させていただいておりますので、考え方は、もうまさしく井上さんがおっしゃった考え方で、我々も小山の町長も同じ考えだと思いません。

私が懸念しているのは、例えば今、普通に三島から人を先に募集をかけて契約をしたと。にもかかわらず、今度は山北とか向こうで同じような仕事をさせるのに、そこだけ上げるというわけにはいかないでしょう。となれば、同じ条件ということになりますから、それで果たして、山北やほかのところが納得してくれるかどうか。最初から高ければいいんですよ。ですけど、そういうことが、非常にどうなのかなと。

今、聞いている中でもお豆腐屋さんで、日本一大きいようなお豆腐工場をつくるとか、さまざまなことがありますので、そういったような人事関係の会社の考え方というのもございますから、当然、先にそういったような募集をかけて、何人かの方が募集に応じて、雇用されると思います。その雇用条件と同じ条件で山北町・松田が入っていけるかどうかというのは、一つの考え方だというふうに思っております。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 井上です。

雇用の形態とか、そういうことについては、これから、いろいろ課題とかは出てくるでしょうけども、例えば、総務常任委員会ですとずっと検討し続けてきて、人口減少問題をどうするんだといったときに、何か私は降って湧いてきたような絶好のチャンスじゃないかなというふうに捉えられたんです。

その絶好のチャンスはそんなめったにくるわけじゃないので、そうすると、町のほうの姿勢としての、例えば総合計画の基本計画が後期に入っていくと。その後期に入っていくんですけども、経済状況の状況によっては、いろいろ変更もあるんだよというような内容もありますので、そういうことから考えると、今までずっと総合計画そのものがこっちに向いていない、西に向いていない総合計画だと思うんです。これは仕方ないと思うんです、各県がそうですから。

ですから、場合によっては、そういうところまで踏み込んでいって、定住の、例えば空き家対策あるいはいろんな土地利用も含めて、そういう向こうのほうへシフトするような施策を打っていくというような考え方はいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、こういうチャンスは余りないということなので、ぜひ、そういったことはチャンスを生かして、雇用問題に対しては、そういうようなことは考えておりますけど。

一方で、山北町で来ていただく企業が小山に行ってしまう、南足柄にも、1店舗あるということですけど、さらに、そういう拍車がかかる。ですから、そういうことについて、当然、もともと山北にあったんですから、山北の従業員が向こうへ行くわけですね。ですから、そういったこともありますので、当然、神奈川県にあった企業ですから、当然、神奈川県の給与体系で、多分、向こうでも雇用されるというふうに思いますけど、そういったことが、さらに拍車がかかる可能性もあるということで、一部では雇用はいいことだと思いますけど、企業が持っていかれることについては、非常に我々としては、痛しかゆしだなというふうに思っておりますので、そういった面も含めて協

力できるどころ、あるいはまた手を打たないといけないところ、そういったところはあるかというふうに思っております。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 町長、企業は持っていかれるというのは、確かに、そういう懸念あるんですけど、その反対もあるんじゃないですか。小山町としっかりと、仮に手を握っていき出したら、向こうの企業が山北へ来るという可能性だってないわけじゃないじゃないですか。いかがですか。

議 長 町長。

町 長 企業間では、当然、そういうことはあるかと思えますから、別に、私は持っていかれて、どうのということを行っているわけじゃないんですけど、基本的に、今回の企業誘致に関して小山町さんは県が20%、町が20%、土地代を下げているわけです。ですから、もともと安いところへ持ってきて40%下げていますから、当然、企業としては、そのほうが初期投資が安いということが一つ。

それから、当然、それに関して融資をかける銀行等がどちらかを選択した場合に、そちらを勧めてしまう可能性もあるということで、非常にその辺が、別に町同士は仲よくやって、我々も別に持っていかれたからどうのというようなことは言っていないし、また、来ていただく企業もあるかもしれませんが、そんなことは別に思っておりませんが、しかし、現実の中で起こる選択肢というのは、現実に4割土地代を下げていますから、それは非常に、我々にとっては驚異的だなというふうに、そういうふうに捉えています。

議 長 井上正文議員。

3 番 井 上 井上です。

その辺については、いろんな形でいろんなことが、多分起こり得ることも想定できますので、おおよそ、町としての今絶好のチャンスについては、取り組んでいきたいとか、考えてくれるということのような答えが得られたかなというふうに思っていて、最後の出向の問題なんですが、これは、なぜこんなことを出したかという、やっぱり相互にお互い信頼関係を持って、片側だけで出向だけを出すのではなくて、お互いに出向を出したり受け取ったりする形をとっていくということは、非常に、その後の友好関係が深まっ

ていくのではないか、あるいは情報も含めて、かなり情報も確かな情報になっていくということがあるので、これを出したのですが、そんな考え方で出したんですがいかがですか。

議  
町

長  
長

町長。

おっしゃるように片側で山北町から出向させるということは、私は考えておりません。おっしゃるように、相互でやる、もしくは向こうは求めているわけですから、向こうから出向していただくというような方法はとれないんだらうかというようなことも考えておりますので、そういった意味では、やはり山北だけではなくて松田とか、そういったこの足柄平野全体を考えますと、そういったような小山さんのほうの要望のほうが強いというように思いますので、そういった意味では、例えば5町一緒になって、そういったようなものを受け入れるという可能性もあるのではないかと。それが難しければ、おっしゃるように両方で派遣し合うというようなことは、当然あるかと思えますけど、しかし、山北だけということではなくて、当然、この1市5町が、多分エリアになってくると思いますので、それらを含めながら調整していきたいというふうに思っております。

議

3 番 井

長  
上

井上正文議員。

井上です。

私は、この山北の人口問題を考えたときに、非常にこのスピードが速まっていってしまっていて、打つ手が町だって、もう全て人口問題をどうするんだというところへ大きなウエートを置いているということなので、その意味でも、総務常任委員会でも、それに一応合わせる形で、やはりこの人口減少問題を一番に取り組んでいこうということで、長年やってきて、本当に一つ一つのことは大きな課題だったんです。

これが、もしそういうことが実現可能になっていくと、例えば私は働き口の問題とか、それから、鉄道のICカードの問題を含めて、ほとんどの課題がこっちの課題なので、もしこっちに来ると、多分、課題が変わってくると思うんです。課題が変わってくると思いますので、本当に先ほど、私言いましたけども、総合計画の後期計画の策定、これは社会経済情勢に急激な変化が生じた場合は5年間にこだわらず柔軟に見直しを図るほか、進捗状況を毎

年把握して進行管理を行いますというようなことが書いてありますので、ぜひ、これを真摯に受けとめて、このチャンスを生かすということで、そっちに向かってくれると本当にありがたいと思っているんですが、最後そこを確認して終わりたいんですが。

議 長  
町 長

町長。

おっしゃるように、町の一番はもう人口減少が一番の問題でございます。少子高齢化ということでございますけど、その特徴的なことはやはり周りから減っていく。山北町であれば、やはり三保・共和、そういったような、離れているところから減っていく。

もちろん、それは神奈川県でも同じで、横浜と川崎とか藤沢とか海老名あたりには、人口が多少減る速度が遅くても、周りのところが急激に減っていくということですから、山北町も同じような流れの中で進んでおりますので、そういったことを解消するためには、やはりスマートシティ的な考えも持たざるを得ないということ。

私のほうとしては、まず一番の考え方としては子どもの数が減らないように何とかしたいということ、後継者の問題。要するに、せっかく事業をやって赤字にならずにやっているんだけど、後継者がいないということになれば、その事業が終わってしまうということがありますので、この2つの問題が最優先だろうというふうに思いますので、そのためにもやはり雇用という働き場所というのを非常に大きなことでありますし、また、アンケート調査で、一番が交通問題、不便だということがありますので、ようやくICカードあたりが少し使えるようになったということと、あと、本数がまだまだ少ないということが課題でありますから、その2つについて、何とかこれからもいろんな方法をやっていきたいというふうに思っております。

議 長  
3 番 井 上

井上正文議員。

井上です。

終わりにしたいんですが、この質問をして最終的に何だっというんですかということで、ぼやっとしていてもいけませんので、一応、町長の考え方として、小山のそこについてはきちんと目を向けて取り組んでいきますよというような考え方をいただいたということよろしいでしょうか。

議  
町

長 町長。

長 小山さんとは、もうかなり前から、そういうようなことで連携させていただいておりますので、町としても、できるだけ双方が小山にとっても、利益がある、町にとっても利益がある、ウインウインの関係を続けていきたいというふうに思っております。

3 番 井 上 終わります。